

1. 単元名 物語あるある よくあるアイテムの秘密

「主体的な表現者」を育むための文学の授業改善 ～「読みの瞬発力」を高める短文教材の開発～

教材①「鏡のなかの犬」 教材②「鏡の国のアリス」 教材③「白雪姫」 教材④「雪の女王」

2. 単元設定の理由

(1) 単元について

本学級の子どもたちは第5学年において、感覚的に物語を楽しむという物語への触れ方を、より分析的な思考にシフトチェンジさせるべく、短文教材と長文教材の学習を合わせて行ってきた。短文教材「鏡のなかの犬」「あめ玉」では冒頭から結末にかけての終わり方を、対照的構造の2つの短編小説を比較することで端的に学習した。また、長文教材「注文の多い料理店」では、感覚的なおもしろさを「作者の工夫」として分析的にとらえ、現実-非現実-現実というファンタジーの代表的な「物語の構造」、そのおもしろさをより引き立てる「表現の工夫」を複合的に学習した。短文教材を通して指導者が焦点を絞った読みの観点を積み重ね、長文教材を通して複合的な学びをおこなってきた。

本単元では鏡が登場する4つの短文教材を扱い、キーアイテムの果たす役割をテーマに学習を進める。物語にはある程度セオリーというものがあり、読者はキーアイテムの登場により、物語の展開を想像することができる。今後の展開を想像しながら読むことで、続きをより楽しんで読み進めることができたり、時には裏切られ意外な結末を味わえたりすることができるのではと考えた。今回とりあげるキーアイテム「鏡」は多くの物語において、非現実への入り口を表したり、人間の外見や内面の真実の姿を映し出すものとして使われたりしている。この「鏡」が登場する4つの物語を比較する中で、その共通性から「鏡」が物語中で担う役割を子どもたちに思考させたい。そしてまた、今後出会うで物語に対し、子どもたちがキーアイテムの果たす役割という新たな読みの観点をもち、より深く物語の分析に思考をめぐらせることができる子どもを育てたい。

(2) 単元の目標

- キーアイテムに着目し、3つの物語から「鏡」の果たす役割を比較し、自分なりの意味付けをしようとしている。
(関心・意欲・態度)
- キーアイテムの果たす役割をつかみ、物語をより深く読む視点を得ることができる。(読むこと)
- キーアイテムの果たす役割を考えながら、読書に励むことができる。(創造的実践力 活用力)

(3) 活動構成の仮説

仮説①短文教材での学習によって、活用力を発揮する活動構成を行うことができる

長文教材では読みの観点が複合的であり、従来までの長文教材だけしか扱わない国語科の活動構成では、読みの観点を自覚して学び、課題解決に向けて活用することに困難を感じる子どもの姿が見られた。そこで、長文教材の学習と合わせて、本単元のような短文教材を短い時間で扱う活動を構成した。指導者がつけたい力に焦点を当てた短文を、短い学習サイクルの中で取り扱う活動構成を経験することにより、読みの観点を自覚して学び、すぐに活用力を発揮できる体験を子どもにさせることができると考える。

仮説②情報を多面的・多角的に見ることにより、読みの観点における気づきを得ることができる

子どもたちにとってキーアイテムの果たす役割を学ぶにおいて、ひとつの物語を見るだけではその特徴を掴みにくい。そこで、同じアイテムが登場する物語を比較し、情報を多面的・多角的に見ることで、そのキーアイテムが果たす役割に気づくことができるのではないかと仮説を立てた。この実践をもとに今後「キーアイテム」に目を向けられる子どもの姿を育てたいと考えた。

3. 単元計画 全3時間（1時間／3時間）

物語あるある よくあるアイテムの秘密	学習活動の流れと子どもたちの意識の流れ	指導上の留意点	言葉を意識する心情面・技能面の評価
	<p>短文教材を読み「キーアイテムの果たす役割」についての分析をする。</p> <p>図書館に行き物語によく登場するアイテムを探してみる1時間</p> <p>どんなアイテムが今まで読んだ物語の中には登場したかな。図書館で色々な物語を読んで見て探してみよう。</p> <p>どんなジャンルの物語から探してみようかな。普段読んで見ないものから探して見るのも面白いかもしれないね。</p> <p>僕は冒険ものの本を読んでいたんだけど、よく剣とか龍が登場していたな。</p> <p>女の子向けの本ではケーキなどのお菓子や、リボンが出ているな。</p> <p>なんだかアイテムの中にはよく登場するものがあるな。何か、そのアイテムじゃない意味があるのかな。次は考えてみたいな</p>	<p>○学習の見直しをもてるよう、短文教材を何点か読破の中で「キーアイテム」の果たす役割について本単元で学習するという目的を伝える。</p> <p>○既習教材「お手紙」(アーノルド・ローベール)を例に出し、キーアイテムというものが何を指すのかを示し、他に思い当たるアイテムを子どもたちから導き出す。</p> <p>○図書館に行き、多くの物語の中からよく登場するアイテムを探させる。</p> <p>○物語のジャンルから子どもたちの気づきを分類し、物語にはよく登場するアイテムがあることをつかませる。</p> <p>○次時では実際に教材文から物語によく見られる、あるキーアイテム(鏡)の秘密について詳しく探っていくことを予告する。</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>□授業中のノート・ワークシートへの記述や発言、読書に向かう姿勢を評価する。</p> <p>○キーアイテムというものを知り、物語の中からそれを見出そうとしている。</p> <p>□…評価の方法 ○…満足できる姿 ▲…支援を要する姿 ◇…支援の方法</p>
	<p>「鏡のなかの犬」「雪の女王」「鏡の国のアリス」「白雪姫」を読み、鏡が果たす役割について考える。1時間（本時）</p> <p>今日は前の時間に学習したキーアイテムが出る短文を、実際に読んでいくんだね。どんな文章を読むことができるのかな。</p> <p>確かに、「鏡」って物語によく登場してくるな。鏡ってどんなものかな。光を反射したり、うつしたものが逆になったりするね。</p> <p>4つの物語から自分の興味のある物語について分析してみよう。アンデルセンの童話に興味があるから雪の女王にしてみよう。</p> <p>鏡のなかの犬 二面性・人の本性</p> <p>雪の女王 逆・裏面</p> <p>鏡の国のアリス 入り口・逆の世界</p> <p>白雪姫 真実を伝える</p> <p>4つの物語から共通点を考えてみると、「鏡」というものは人間の裏の姿を含めた「真実」をうつしたり、ファンタジーの入り口を表したりするものなのかな。</p> <p>他の物語にもよく登場してくるアイテムってあったよね。それにも役割があるのかな</p>	<p>○前時で学習したキーアイテムの果たす役割について、本時では、4つの短文教材から秘密を探っていくことを確認する。</p> <p>○普段の生活の中から「鏡」についてのイメージをイメージマップによって共有することで、教材文より役割を探るためのヒントとする。</p> <p>○指導者が4つの教材文のおおまかなあらすじを話し、自身の興味・関心、習熟度により自己選択できるようにする。初読の教材文「鏡の国のアリス」「雪の女王」「白雪姫」と、既習である教材文「鏡のなかの犬」を織り交ぜることで、適度な困難度の教材文を子ども自ら選べるよう支援しておく。</p> <p>○自身が分析した文章についての気づきを発表すると同時に、4つの情報より、多面的・多角的に「鏡」というアイテムの役割を考えられるよう、声をかける。</p> <p>○前時・本時の学習をいかし、今後の創作活動や読書活動にキーアイテムの果たす役割が活用できそうかを考えさせる。</p>	<p>関心・意欲・態度 □授業中のノート・ワークシートへの記述や発言を評価する。</p> <p>○キーアイテムの果たす役割に着目し、4つの物語から「鏡」のもつ象徴性を比較し、自分なりの意味付けをしようとしている。</p> <p>読むこと □授業中のノート・ワークシートへの記述や発言を評価する。</p> <p>○キーアイテムの果たす役割をつかみ、物語をより深く読む視点を得ることができる。</p> <p>▲自身の思いや経験が先行してしまい、教材文を根拠として、「鏡」のもつ役割について考えることができない。</p> <p>◇教材文に立ち返らせ、自身の意見と教材文が結びつくよう声をかける。</p>
<p>キーアイテムを扱った他の物語を読み、役割について考えてみる 1時間</p> <p>自分の知っている他の物語にも鏡って登場するよね。それにも同じ役割なのかな</p>	<p>○指導者が提示する物語以外にも、子どもが自ら持ってきた物語も柔軟に受け止める。</p>	<p>活用 □授業中のノート・ワークシートへの記述や発言、読書に向かう姿勢を評価する。</p> <p>○前時で学習したキーアイテムの果たす役割を考えながら、読書に「歴史」することができる。</p>	